第２回（仮称）富里市協働のまちづくり条例検討委員会　会議録

日　　時	平成２１年２月２７日（金）１４：００～１６：４０
場　　所	富里市役所分庁舎２階大会議室
出席委員	久野直衛委員，荒野峰之委員，二上正栄委員，斉藤栄子委員， 大木寿美子委員，前川恵右委員，草野孝江委員， 高澤忠彦委員，渡辺信子委員，石川政江委員，佐藤征人委員， 伊井かつ子委員，森田修仁委員，小澤和子委員 〈欠席１名：伊藤友子委員〉
アドバイザー	千葉大学法経学部准教授　関谷 昇氏
事 務 局	総務部企画課長，企画課企画調整室長， 企画課企画調整室員〈２名〉
傍 聴 者	２名

〔会議次第〕

１．開会

２．あいさつ

３．議題

〈１〉各自のまちづくりへの取り組みについて

〈２〉今後の進め方について

４．その他

〈１〉議事録等の公開について

５．閉　会

〔会議概要〕

	〈１〉各自のまちづくりへの取り組みについて
アドバイザー	先日は，山武市の講座方に７名の委員にご参加いただきまして，全１０回のうちの最終回だったので，ややまとめということになってしまったのですけれども，市民協働，市民参加のまちづくりっていうものがどういうものなのかという一端をお聞きいただきました。協働まちづくりといっても，地域や自治会によって形は違うと思うんです。ですから，その町その町のまちづくりのあり方っていうのを考えていくっていうのが一番大事かと思います。 今日は，私のほうで，進行を務めながら，まずは，皆さんのほうから自己紹介と普段どういう活動をされているのか，また，富里市におけるまちづくりのあり方，どういうまちづくりの形がありうるかなというような各委員さんなりの想いというものがあると思うので，自由にご発言いただければと思います。この委員会は，条例を検討していくということになりますから，条例っていうのはまちづくりしていくにあたってのルールなんですね。ルールを決めていくにあたってもいろいろな形があります。ルールを作っていくというのを目指しながら，かといってルールのためのルールでは意味がないですから，我々住民がまちづくりをしていくにあたって生きるようなルールであってもらいたい。そのためには，住民の皆さんがどういうことを望まれているのかどういう課題を抱えているのかということをクリアさせていくことによって，ルールのあり方とか形が少しずつ見えてくるのでは。はじめからルールというのを決めていくのではなくて，まずは，みなさんがどういうイメージをもたれているのか，少しずつこの委員会で共有していく。その中で少しずつ交通整理をして，どういうルールが必要なのかというのを徐々に固めていくのがいいと思いますので，今日は，そのスタートということで，自己紹介とみなさんの思いい

	うことで，少し委員会のメンバーで共有していきたいと思います。どなたかいらっしゃいませんか。
斉藤委員	斉藤栄子と申します。今までにＥＭというものに携わって，感動と喜びをもらい人生がかわりました。そのことから，１５年前に生ごみをリサイクルする運動を実施する「環境美化をすすめる共生の会」を立ち上げました。ちょうどそのときの市役所の担当者が，議員さんと自治会と私たち市民運動が一緒になってゴミをいかに減らすかということをしたんです。でも，その後たまたま市の担当者が変わってしまったことから，市の担当者との連携が出来なくなってしまい，みんなで実施する事業がうまくいかなくなってしまいました。その大事な部分に，行政が継続して関わってほしいなと。あの頃もし継続してやっていたら，富里市の環境問題は，もっともっとよくなっていたと思います。活動としましては，子供たちに小・中学校の総合学習などでＥＭを使うなどの環境授業を８年間しました。その中で子どもたちをいろんな場所に連れて行き，活動させて，発表してもらうなど，学校では学ぶことのできないことを実体験してもらいました。今は，各小学校でプール掃除に米のとぎ汁ＥＭ発酵液を投入することをしています。これをお願いしたときに，自治会がしっかりしているところはすぐにＰＴＡが動いてくれ，学校側とＰＴＡ，そして子供たちとで米のとぎ汁ＥＭ発酵液を作り，子供たちがそれをプールへ投入してくれました。それから，私の一番最後の願いは，街全体を花でいっぱいにしたいんです。生ごみリサイクルした土で，花でいっぱいになれば心が穏やかになって，たぶん交わす言葉もおはようございますとかこんにちはとかってあいさつがたくさん生まれ，もっともっと街が活性化するんじゃないかなあと思います。そうした街になるように，一緒にやっていきたいと思います。
アドバイザー	議員，行政，自治会，市民活動がつながっていたっていうのは，最初は，行政がそういう事業をやるって形で，それぞれの

	方々が，それぞれの立場で集まって，その動きを作り出していったってことでしょうか。
斉藤委員	そのころは，ちょうど，クリーンセンター問題があり，行政側がすごく動いていたんです。土日，夜もなしに，各自治会を回って全部お願いしたのです。そのときは，みんなが一生懸命やったって感じで，すごくいいところまでいって，さらに広めようとしたときに中心になっていた議員さんもいなくなり，役員も変わって，そのまま消えてしまった。私たちが運動を始めて１５年を経過し，若かった人たちも６０才で始めた人たちも７５才になってるし，これからは協働という手法でパワーをもらいたいんです。みなさんパワーをもらってやっていきたいために参加させていただきました。
アドバイザー	今の中にも協働のまちづくりとかルールづくりを考えていくうえでいくつかポイントが含まれていたかと思うんですね。つながりという部分ですが，人が変わることによってその動き止まってしまうということです。ルールとしてしっかりしていれば，動きはもう少し持続していけるんじゃないかと。そのルールと言うのがそのとき十分ではなかったがゆえに，少し動きが変わっていってしまったという部分です。自治会をはじめとした団体との連携などを通じて花づくりっていう夢を実現させたい。まさに協働型のまちづくりって夢の実現ということだと思います。今後大きな議論のポイントになっていくと思います。
草野委員	前回，欠席となってしまって，大変失礼いたしました。改めて草野と申します。私は，「ＮＰＯ富里のホタル」というＮＰＯ団体の理事長をしております。まだまだ知名度の低いＮＰＯ団体なんですが，総会が２月７日に行われました。たぶん９０名から１００名の間の会員さんが，入って活動してくださっています。富里の中には谷津田がたくさんございまして，昨年調

	べましたら，３９ヶ所でホタルが発生しているところがございます。もちろん，中央公園にも発生しておりまして，近年だいぶホタルが出てるよという話で，４年５年ぐらい前から少しずつ活動して，もっと１４・５年前からホタルをずっと１箇所で定点観測している方もいらして，そういう思いの方たちが，集まりまして，今年の７月で，ＮＰＯを立ち上げて２年になります。ＮＰＯに関わるということで，定款をまず最初に作りました。定款が８項目ございますが，１番目に社会教育の推進をはかる活動，２番目にまちづくりの推進をはかる活動というのを掲げました。内容は，子どもの健全育成をはかるとか，環境の保全をはかるということで，８つほどあげましたが，きしくも２つめにまちづくりということを掲げました。それはどうしてかと申しますと，環境がすばらしいということをみなさんに認識していただきたい。もちろんみなさん認識されていますけれども，「ホタルが出るよ」という一言で，農産物が安全で環境のいいところに住んでいるのだから，友達を呼んで夜になったら，ホタルをみせてあげられるようなそういうイメージで，まちおこしのお役に立てればということで，立ち上げた次第です。まだまだ，課題がたくさんございまして，活動もなかなか手探りの状態でやっておりますけれど，なんとかひとつずつ前進しているようです。みなさんのパワーとか達成感があるとか，子どもたちに喜んでもらえてうれしいとか，これがボランティアの活動の基本なのかなと日々感じています。 　先日，栄町で県のＮＰＯが６０団体ぐらい出てやっておりましたけれども，その中でも自分たちで言うのもおかしいのですが，富里のホタルはだいぶ注目を浴びて帰る時間まで，みなさん絶えることなく，いろんな質問してくださるんですよね。一緒にいった者が立ちっぱなしで疲れたと言っておりましたけれども，ずっとみなさん関心を持ってくださって，「何か情報がないの。」とか「パンフレットないの。」とかいろいろ。持っていたものは，すぐなくなってしまいましたし，ホームページも立ち上げましたので，少しずつやれることをやっていきたい

	という考えでおりますので，これからもよろしくお願いいたします。いろいろお知恵をお借りたり，勉強させていただきたいと思いますので，よろしくお願いいたします。
アドバイザー	ホタルって言うと，水がきれいという感じがありますよね。そういう意味での自然環境は，協働のまちづくりを考えていく時に，１つ出てくるのは，このまちの自然とか資源とかなんなのかっていうのが，確認していくことがベースに必要なんですね。うちのまちのこれが宝なんだっていうのを地域住民の人たちがどれだけ知っているかということが，非常に大きいポイントだと。私もあちこちの自治体に行くと，うちのまちの魅力って何だろうっていうところもあるんですね。やっぱり富里における自然・資源というものが一つの柱になるってお考えなんですね。
草野委員	子どもさんのときに本物を見ていただければ，一生思いが残って，それでまちを愛してくださるんじゃないかと思っておりますので。
アドバイザー	ＮＰＯ，市民団体・市民活動をＮＰＯとは限らずにボランティアであったり，いろんな形がありますが，そのへんのことをどういうふうに考えていくのか。と同時に団体の活動をどう支援していけるのか。支援といいましても行政がやる支援もありますし，住民相互でなしうる支援って言うのもあるわけなんですね。そういう環境を作っていかないと個々の団体のみなさんは，私たちはこういう活動をやりたいと思って，それぞれに活動され，もっとこういう支援があればいいのになってというような課題を解決していけるような環境を作っていけるかどうか今後一つの大きな課題になっていくと思うんです。そういう観点からもぜひご発言いただければと思います。
佐藤委員	私は日吉台３丁目の佐藤と申します。日吉台には，９つの自

	治会があるんですね。それをまとめているのが，日吉台自治会連合協議会なんですけれども，通称連協といっているんですけれども，私は，３丁目の自治会の中で，その中の一つの役員をしていまして，役員といっても１年３か月前に自治会で福祉活動をたちあげようというような念願が前からありまして，ようやく１９年の１１月３日に福祉ふれあい隊として立ち上がりました。福祉っていうのは，正直言って私自身，全然興味はなかったし，何をやれば福祉かっていうのも全然知識もないし，体系図系をまずしていきたいなと思っても，そういうことすらしてしなかったんですけども，幸いにして民生委員の人とか地域で福祉に関するボランティアで実施に活動されている人がいらっしゃいまして，そういう方々を含めてようやく３０名。現在，私も含めて３１名のメンバーで活動しています。活動の大きな柱が２つありまして，１つはお手伝いする仕事ですね。高齢者へのお手伝いをしようと。２つめは，高齢者をイベントなどにより家から引っ張り出すというかふれあいの場をつくることの２つをやっております。お手伝いをやろうかという背景ですが，簡単に言いますけれども３丁目の自治会の会員の年齢構成は，６５歳以上が，１５．８％を占めています。３，４年前は，１２％ぐらいだったんですけれども，こういうふうに高齢化にいっています。あと１０年たつと６５歳以上の人が，半分こえてしまうということ予測を立てております。その中でも独居の方だとかご夫婦とも身体の不自由で蛍光灯一つすら取り替えられない方もいらっしゃいます。そういうところへお手伝いしたり。あるいは，庭の草木の選定だとかたまには入るんですけれども，できるだけ家の中に入らないようなお手伝いをしたり，それ以外にイベントを３回ほど１年間にやっていまして，敬老の日のお祝いだとかバザーだとかお花見会といって，春になると公園に皆さん呼んで，できるだけ外に出てもらうということで，みなさんに喜んでいただいています。しかし，これもですね，日吉台の中のほんの一部，３丁目の自治会の中だけでやるものでまだまだ不十分だし，是非，周りに広げてい

	きたいということでいろいろなところで接点を持つようにしているんです。幸いにして先日も市の教育委員会から創年セミナーの場で，講演会をやってくれということで発表させていただいたんですけれども，できるだけそういったことで，みなさん思っていることを行動に起こしたいという方が結構いらっしゃるんじゃないかと思いまして，どんどん輪を広げていこうと。私は，富里市に対するお願いというか，私たちは大それたことは言えませんけれども，「自分達で出来ることはまず自分達でやろう」というのが，３丁目自治会の大きな目標なんですけれども，防犯，防災，福祉っていう３つの専門部会がありまして，大勢の人たちが活躍されているんですけれども，その中でも富里市がですね，比較的，私の印象ですけれども，一歩下がってみているように感じをうけてしょうがないんです。それは，財政的に苦しいとはいつも話に聞かされます。非常に残念です。お金をかけなくても知恵でなんとかいろんなことをやっていけることがあるんじゃないかとそういうことを一緒になってつくりあげていきたいと思います。
アドバイザー	協働のまちづくりで一つ問われますのは，自治会っていいますか一般的に言うと地縁組織といわれるものですね。私も富里市内の地理は分からないのですけれども，北部は，新しく越されてきた人が多い地域で，南部ってなると前から住んでおられる方と地域によって地縁組織のおかれた状況って話がありましたけれどもかなり違うと思うんです。いい悪いっていうことではなくて，これまでの歴史ってものもあるでしょうし，地域の個性みたいなものがあるでしょうから，このへんをどう考えていくっていうのが，今後の課題の一つになっていくと思うんです。今，役員のなり手がいないとかそもそも地縁組織って何をやるのか。活発なところはいろいろなところをやっているけれども，やっていないところは，微々たるものしかやっていない。そういう差が出てきている。だけれども，その地縁組織と言うものを今後，どうやってとらえていくのかっていうのはま

	ちづくりにおいても大きな課題です。よく言われますのは，例えば，地縁組織とＮＰＯとの間の壁っていうのもよく言われますね。やり方とか文化の違い。べっこにやるべきだとか古くからやられている方は，新しい活動は私たちとは別だと分けてしまう。そういう部分ももしかしたら，あるかもしれませんので，そういう地域組織のあり方，関係づけっていうのをどうしていくのかっていうのもこの委員会で検討していけたら，非常に大きな課題ってことになります。福祉って言うのは総合的な営みであって，だからこそ，行政側は，対応が難しい。つまり今，色々な自治体で地域福祉計画を立てるっていう動きも加速していますけれども，まず，地域住民のみなさんが，福祉について，どういうイメージをもっているのか何を必要としているのか出していただく。そうすると，日常生活の課題がいっぱい出てきて，要するに我々の日常生活のこの分野，この分野っていうのをわけてないですよね。行政の側からすると，基本的に組織の構造上，縦割りなんです。そうするといち福祉部門だけで，全部の課題なんて対応できないと。さきほど，ちょっと引いてみているという話がありましたけれども，組織的に福祉の問題についてなかなか対応できていない状況がある。その問題をどう解決していくのかっていうのもこの委員会で議論すべきことだと思います。だから，今のやり方でいいのかどうか，もちろんお金はかけられない。けれども，行政にできること，住民にできること。それぞれあるわけですから，そこをどういうふうに役割分担っていうのを考えていくのかっていうのも協働のまちづくりの課題になるかと。特に行政との関係って言うのは，なかなか難しいところもあると思うんです。ですから，みなさんどういうアイディアをもって，そこに風穴を開けていけるかどうかっていうのが，非常に大きな１つのポイントになるのではないかと思います。あとは，そういう活動をどういうふうに広げていくのか。例えば，行政が間に入ってくれることによって違う団体と知り合えるっていうこともあるんですよね。そういうふうにしていくこと必要があるのだとしたら，その辺

	をどういうふうに制度としてどう考えるのか。ルールとして考えていくのかというのが出てくるかと思います。そのへんも大きな課題だと思います。次はいかがでしょうか。
石川委員	私は，説明するのに自分で資料を作ってきましたので，配っていただいてもよろしいでしょうか。私，石川政江と申します。役的には，ボランティア連絡協議会の副会長及び社会福祉協議会の理事で副会長をやっております。あと，福祉のほうで，介護保険の策定委員もやりまして，策定委員会が終わりまして，今は，運営委員会の委員もやっています。みなさんにボランティア連絡協議会っていうものがどういうものかよくおわかりにならない方も多いかもしれませんが，社会福祉協議会の中にボランティアセンターがあります。その中には，ボランティアコーディネーターが２名，パートですけど，月火水と水木金と２名います。水曜日だけが，２人ですが，あとは，１人ずついます。主に，依頼者と担い手の調整役なんですが，その他には，講演をしたり，講演会を企画したり，また小学校に福祉器具を持って授業しに行ったりと結構大変な役をやっております。その人たちと一緒に連携をとってやっているのが，ボランティア連絡協議会です。これは県組織で，各市町村全部ほとんどあると思います。事務局は社会福祉協議会においてありますが，内容的には，市のボランティアの集いとか日帰りの親睦旅行，研修会，または県との情報交換のための研究会というものをやっております。本日のテーマっていうのを自分で考えてみたのですが，「もっとボランティアの担い手を増やそう。助け合おうよ。自分達で。」と作ってみました。常に担い手が少なくて困っております。１９年度と２０年度も依頼数は，１０００件をこえております。佐藤さんたちみたいにグループでやっている方が，だいたい富里市には，４７団体あります。個人が７１名います。その人たちは，人数的には多いんですけれど，いざお願いする段階になるとなかなか動いてもらえなくて，その１０００件の依頼を調整するのに大変困っております。それで，団

	体の人たちがボランティアをやっているのは，いいのですが，私たちのほうは，センターの依頼を来た場合に，担い手が足りないんですね。ですから，協働のまちづくりか何かで，市全体で，担い手をやるっていうのは，お金もかかりませんし，是非提案したいと思って，ここに参加させていただきました。それで担い手の人たちにお返しすることっていうのが，何もないですから，ちょっとよそのところを気にしていますと，年間活動費として２０００円あげている成田市，それから地域通貨みたいなところでお貸ししているところもありますけれど，将来的には，私なりに考えているのですが，貯金制度，ボランティア貯金制度みたいなことをして，例えば３時間やったら，自分が困ったときにそれを引きながらやっていくっていうのがいいんじゃないかなと。これは，まだ具体的にどうするというのはないのですが，こういうことを私は今，考えております。以上でございます。どうぞよろしくお願いいたします。
アドバイザー	依頼者との調整ということを考えたときに，４７団体，７１個人の中でやりくりするってことは，なかなか難しいということもありますでしょうし，市全体で，担い手っていうのを増やしていけるかどうかというところですかね。
石川委員	そうすると，ボランティア本来の言葉でいうと「隣人愛」ですよね。それが，だんだん広がるんじゃないかと思っております。
アドバイザー	さきほど，地域の資源ということで，自然ということを申しあげましたけれども，人もそうなんです。自分だったら，ここまではできるよって内心で思っていたり，何かやりたいと思っているけど，なかなか自分の活動の場を見出していけばいいのかと，とまどっていたりだとかそういう情報がなくて動けないでいるっていう方が，潜在的にはかなりいると思うんですね。そういう人材っていうのをどうやって発掘していくのかって

	いうのも協働のまちづくりの大きな柱になっていきます。これはいろいろなやり方があると思うんですね。そういうものを富里市に見合った形でつくっていけるかどうか，逆にそういうのができあがって動いていけるようになるといろんな人手っていうのが出てくる。そういう人手を相互に「私はこれはできる。だけど，これはちょっと足りない。」また別な人がいると。お互い補完しあう。そういう循環というものが出来上がってくるっていうのが，まさに問われているところ。まさにおっしゃるとおりだと思います。こういうボランティア貯金とかそれに類する部分っていうのは，今，いろいろ他でも事例が出てきています。ですから，その辺も事業として考えるでしょうし，また別の仕組みとして考えることもできるでしょう。アイディアを出し合ていくのも，この場でやっていかれるともっとイメージが沸くと思いますし，そのためには，住民は何をしなくてはいけないのか，行政は何をしなくてはいけないというのも出てくると思います。資源の発掘とつなげるというのが大きいと思います。もう一つ，社会福祉協議会というのは，協働のまちづくりの大きな柱だと思うんですね。当初担い手不足っていう話もありましたけれども，もっと他の地縁組織，いろいろな市民団体，そういう連携というのは，今のところどんな状況でしょうか。特に地縁組織との関係はどうでしょうか。
石川委員	今は，あんまり。十何年ボランティアセンターが出来てたちますけれども，広報的な啓蒙と総会等に目をとおしてくれる。
アドバイザー	社会福祉協議会での担い手が不足している。地縁組織も担い手が不足している。また別のところでもそうだけれども。逆に別のところで，そうじゃない部分の人材もある。そこをどういうふうにつないでいけるか，その橋渡し役としても社会福祉協議会は大きな役をしている。市内に支部っていうのはございますか。

石川委員	地区社協は，８つあります。
アドバイザー	今後の議論に出てくるポイントの一つとして，まちの拠点の考え方っていうのが出てきてくると思うんですね。市全体として考えることも必要ですけれども，もう少し細分化した地区とか地域とか，どういう単位で考えていくのかっていうのが，よく議論で出てきます。一つは社会福祉協議会の地区社協の区分。それから小学校区とか中学校区というふうな部分ですとか。いくつか単位というものが，出てくるんですね。その辺をどういうふうに考えていくのか。そういう拠点をどんな形で作っていくってことが，人をつないでいくってことにつながり，地区社協だけでもダメでしょうし，いろんなものが交ざってつくっていけるかにかかってくると思います。まさにそれが大きな拠点になるのかなと思います。そういう意味でもその役割に期待し，そういった社協の立場からどういう可能性があるのか，是非出していただきたいと思います。
二上委員	私は，みなさんのように大きなことはしていないんです。小さな自治会で１５０世帯くらいの団地に１００％新住民みたいなところに住んでおり，越してきて２５年近くになるんですね。ここ１５年ぐらい。私が学校とか，子どもたちと接点を持っていたときは色々なつながりがあったのですが，子どもも義務教育を終えて，自分がパートに出ていて，これから自分も年をとった時のことを思い周りを見た時，自治会に老人会が出来ました。その時私は４５歳，老人会の年齢が７５歳。私も何か手伝うことが出来ることがあればと思い，会に参加しましたが，１０年経っても老人会の人数は減る一方。年齢を気にしないで集まる会を作ろうと思いお茶会を開きました。ちょうど６５歳で引退されたお父さんに協力してもらい，３地区に分かれているので，地区ごとに顔知りをちょっと引き出してもらい，お母さんもそのうち入ってくれるだろうと。とにかく誰かがやらなきゃなって。これから先，新住民でみんな年をとっていっ

	たらどういう生活したらいいんだろうっていうのが，老人会を見てきて不安でした。毎日１人で生活しているのって。私，育った環境が，大家族だったもので４世代いて，いろんな事聞いていたので，曾おばあさんを思い出しても，思い出を一緒に作っていないと高齢化っていうのに楽しくすごせないのではと感じていたので，それではなにかやりたいねといって始めて５年になりました。何をしようというのはなく，毎月１回だけ集まって夜おしゃべりしましょうと。２０年住んでるけど，１回も顔見たことがない人が多い自治会だなと思えたんですね。で，「どちらの方ですか」と。集まったときに初めましてという会話をしている人が大半なので，それではここから毎月１回のお茶会からスタートして，今度は，みなさんの意見で，１年間計画立てましょうと。みんなの声を吸い上げて，出来そうなものから，あとは，全員が土日休みってわけでもないですし，半数以上が現役なので。ここから先をみた時に，誰かがやってくれるんじゃなくて，「私たちがやらないと見てもらえないよ，今の時代は。」っていうところから始まって，今夫婦単位で入ってきてくれる方が７・８組。２５・６名の会員になっています。今いくら呼びかけといっても，毎月回覧板じゃ無理だろということで，ゴミ置き場のところに看板を設けて，ゴミ置き場なら一週間に２回，３回は見るだろうという計算でお知らせ方法も変えてみました。私たち５０歳以上ってどうのではなくて，何歳でもいいですよって。１８歳以上だったらいいですよってみたいな感じで。やっぱりお子さん持っている人もいるし，ちょっと障害がある人も入れるねってことで，そういう活動をやりつつ，今のところは。こないだの講演の話を聞いたとき，昔やっていたことなんだよなって。今回は，もう一つ広げて「子どもたちと遊ぶ」って形で入ろうかと。そうすれば，その子どもの親とも顔見知りになれるかなというところも検討しています。
伊井委員	昔からの大和っていう地域と大和ニュータウンというのは

	たぶん隣接されていると思うのですけど，昔からの人との接点はどうですか。
二上委員	ないですね。たまたまこの４・５年で保健推進員っていうのもやらせてもらって，声をかけるきっかけの役をできるかなと。もともと住んでいる人たちと接点をもてたらなと思っています。
アドバイザー	一つは近所づきあい。その部分が薄れているというのが，前から言われているところですけれども。それは新しい地域もそうかもしれないし，それなりに歴史のあるところでもまた同じような現象があるでしょうし，それをどうすればいいのか。そういう意味で，月一回集まって話そうよっていうのは，貴重な機会だと思うんです。ただ，それをどういうふうに広げていくのかっていったときに，いろいろな考え方があるとは思うんですけど，いろんな世代に入ってもらえるように。それこそ，そういう場があっても自分で接点を作らなければ，なかなか入っていこうと思えない。それこそ，まさに今おっしゃっていたように子育てが一つのきっかけになれば，子育てで自分こんなこと悩んでるんだけど，誰か相談にのってくれる人いるかなとかいったところから，入っていけるんですよね。接点を作っていくっていうことが，地域づくりに決定的に大きいですよね。だからこれをルール化するっていうよりそれぞれでいろいろなアイディアを出し合っていく中で，支援できることも同時にあると思うんですね。やっぱり協働のまちづくりっていうと，よく言われるのが昔の「向こう三軒両隣」ってことに戻ることですかって言われるんですね。私は，そのとおりだと思うんですね。戻ってある意味濃い関係を作っていくというか近所づきあいっていうのを作っていく。もちろんそれだけでなくて，それにもっと若い人とか新しい動きを発展的に作っていけるかどうかそういう意味での地域づくりだと思います。その辺は，これをやればいいという特効薬は全くないですけど，それをどう

	いうふうに富里なりに作っていくのかだと思っているんですけど。まさに一つの核になる部分かと思います。もし，どなたかのお話の後に関連してこういうことを言いたいとどんどんおっしゃっていただければと思います。
伊井委員	福祉の方の話になりつつあるので，ついでにってことで。なかなか民生委員っていうのは，名前とかって知っている人は多いかと思うのですけど，活動の内容は，わからない方もいると思うので，この場をお借りして紹介したいと思います。今回のテーマで自己紹介も含めてご紹介したいと思います。民生委員は，民生委員児童委員というのが正式名称ですが，皆さんは，民生委員とほとんど言っております。その中に１０年ぐらい前から子どもの虐待やさまざまな問題があるってことで主任児童委員が設けられまして，民生委員の協議会の中に含まれていますけれども，主任児童委員はその中で，子どもを担当するという役になっています。人口に応じて民生委員の数が決められていまして，任期は１期が３年になります。これは千葉県知事の推薦で，厚生労働大臣から委嘱されて民生委員になっています。これは，ボランティアなので，給与はありません。電話をかけたり，車使ったり，会議に出たりとかそういうことにいろいろお金がかかるってことで，年間の活動費っていう形で県の方と富里市の方から１年に１度支給されています。民生委員は富里には，各地区におりまして，富里全部で６５名います。それに主任児童委員が６名。トータル７１名。主任児童委員が６名しかいないので，中学校が富里３校ありまして，中学校ごとに２名ずつ分かれています。今，大雑把にですけど，富里の人口が５万人ということで。端数を切らせていただきましたけれども，単純に７１名の民生委員で，割ってみると１人７０４人担当ということで，民生委員１人で７０４人っていうのはありえない数字で。これを考えただけでも，民生委員だけでは，絶対無理だし，内容もすごく複雑化してきていますし，先ほどの佐藤さんのお話ではないのですが，地域の方で民生委員を手伝

	っていただいて地域だけでも何か起こそうよみたいな。福祉に関心を持っていただいて，お手伝いくださるそういった方をこれからもっとほしいなと思っているところです。富里の民生委員の会議っていうのは，第２水曜日にありまして，全体会っていうのは，富里の民生委員が７１名，全部集まる全体会。あと地区社協っていいまして，さっき関谷先生がおっしゃった小学校単位。これが地区社協っていうもので，その会議と全体の地区社協の会議っていうのが，奇数と偶数で１ヶ月ごとに行われます。一応，行われる場所が，北部の場合は，地区社協は，北部コミュニティーセンターで行われていまして，全体会の時には，事務局がある福祉センターになっています。中部と南部の方については，地区社協も社会福祉課が福祉センターの方を使わせていただいております。地区社協がどういう仕事をしているかというと，小学校単位の活動なので，とにかく民生委員の活動全体のうんぬんではなくて，狭い地域で自分たちの地域を見つめてみようよということで地区社協の方に力をいれてほしいと。県の会長さんとかも地区社協の活動を充実してほしいという要望がありました。民生委員の活動も考え方も変わっていく中で，最近，学校のほうの防犯のパトロールを週に一回，学校によってまちまちなんですけど，パトロールの協力をしております。地域で，先ほどから何度かでていますが，子育て支援。最近，子どもは元気なんですけれども，育てているお母さんが，昔の方法っていうか自分を育ててくれたお母さん，親たちと接点がない若いお母さんと子どもがどんどん増えていますので，どうやって子どもを育てていいかわからない。子どもが生まれて初めて赤ちゃんに触るとか最近の事情っていうことがありまして，地域ごとに民生委員が主体となって３年くらい前からほとんどの小学校単位で行われています。年齢が３歳からと限定されているところもありますけれども，１歳から５歳までで，地域の人だったら誰でもオッケーですよってみたいな。毎月行ったり，年に３回だったり６回だったりとかやり方は地域によってありますけれども，子育てサロンを設けたりだ

	とかほとんど始めています。ごく最近なんですけど，市にも呼びかけたみたいなんですけど，やっぱり災害ですね。地震とかも今まで８０年起きたことがない地域と言われているところでも地震がおきたり災害が起きてる中で，民生委員は民生委員だけが知りえる情報。ここには独居の方がいるよだとか，身体障害者の方がいるよだとか，民生委員独自，民生委員しか知りえない情報を活用しようということで，できればいろんな地域の方とか消防署だとかいろんな団体と協力して作りたいんですけれども，市のほうとか運協他の団体の協力が無理のようなので，一応，民生委員独自の災害マップっていうか支援マップっていうかそういうのを今，作り始めています。あと，支援を要とする家庭の状況の把握。生活保護を含む手当てとかいろいろな証明事務，家の中の様子の確認だとか，民生委員は，こういう内容の仕事をしています。その中で，やっぱり富里っていうのは，自然はあるんだけれども，若い人には人気がない。うちの子供たちも東京にいて「たまにはお盆やお正月に帰っておいでよ」って言ってもうちに帰ってもどこも遊びに行くところないし。東京で遊びに行くところはいっぱいある若者に対しては，富里に帰ってきても遊びにいくところがない，魅力がないっていう話になってしまいます。何か若い人たちでも参加できるような，自然を使ったりだとか食材を使ったりだとか，キャンプ場があればいいなと，でも，煙が出たからってすぐ消防署に通報されちゃうっていうのもなんなんですけど，煙をもくもくさせてバーベキューしたいなとか。そういう発想になってしまうのですが，地域活性化というか。富里市はまだ尻込みしているかなと思っています。
アドバイザー	協働のまちづくりとかで，あちこちでお話を伺うと，地域で民生委員の方々が困っておられる。さきほども何百人って人をカバーしなければならないって話がありましたけど，そういう現状もあるし，そういう民生委員さんの声を聞くと地域における連携がほしいとみなさん口をそろえておっしゃるんですね。

	この部分例えば，ちょっと自治会でお膳立てしてくれとか，ここはちょっと行政のほうでやってくれればとか，ここはボランティアがでてきてくれればと。いろんな課題に応じて，必要なものってあるはずなんですね。その辺をどのように整理していけるかどうかって大事ですし，先ほどおっしゃったのはその小学校区単位，よりも地区社協単位で作っていって，それはどういう活動をしているのですか。
伊井委員	全体で何をどういうっていうのではなく，さっき言った南部のほうは昔からの地域になりまして，新住民もいないし何か新しいものをしようとすると，やっている私は地域差を感じています。だから，地区社協って単位で，もっと支援する。例えば，富里市全部で市役所を借りて，富里でサロン形式でやっていますよ。集まってくださいって広報的にも大変。地区社協っていうのは，地区民生委員が集まって単位も少ないので，学校に呼びかけてもいいし，もっと濃厚に支援ができる。そういうことが地区社協のできる目的なんですね。
佐藤委員	ちょっとよろしいでしょうか。今のお話，全くそのとおりだと思うんですよね。一人当たり抱えている人数が，あまりにも多い。例えば震度３とか４の地震にあったとします。民生委員の人は，自分が仕事を持っていたとしてもその仕事をやめて，その独居老人の方のところに行くわけですね。まあ，私たちが，３か４であれば，もうちょっと我慢しようと，そのうちやむだろうと思うでしょ。ところがお年寄りはそうじゃないらしいんですね。用はあわてて，階段から落ちたり，けつまずいて倒れて頭打ったとかそういうことを心配して，見に行くわけです。そういうことまでやっているということを知りまして，だったら，みんなでやりましょうって。地域で担当を決めまして，先ほども先生のお話がありましたけれども，私たちも同じ言葉を使っているんですけど，「向こう三軒両隣」っていう精神っていうのが，ベースにある。ベースにしてやっていこうというん

	ですけど，だからあんまり遠いところまで行かなくてもいいんです。隣近所だけが担当ってことでいいんです。負担がないようにしているんですけど，今の私どもの民生委員は，非常に助かっているってことで，喜んでくれていますけれども，私思うんですけど，民生委員のあり方って言うのもやはり地域から本来あるべき姿っていうのは，今の形は，もう過去の異物じゃないかと思っているんですね。もっと地域性のある民生委員。要は，個人情報っていうのを非常に大事にするあまりに孤立しちゃうんですよね。個人対個人で動く。これからも民生委員の人たちは，大変な仕事，ストレスを抱えるようになるんですけれども，個人情報のもっとよい使い方っていうのを考えていかなくてはいけないのかなと思います。
森田委員	私は，南部で森田商店をしております森田と申します。仕事は農業関係の仕事をしておりまして，今回，この委員に出させてもらって，この「協働のまちづくり条例」っていう言葉に最初こう違和感があったんです。というのは，協働の字を見るとよくわからない。私，条例というのは，国の憲法に近い富里の憲法だと思うんです。ですから，よっぽど慎重にきちっとした形で作っていかないと，それが作られたがために逆にいろんな問題がおきてしまう条例では困ると。協働という意味の中で，「人任せにする。」「市はやってくれない。」「国はやってくれない。」，そういうことではなくて，「人任せじゃなくて一緒にやるんだ。」この一緒にやるっていうのはどういうことなんだろうっていうことがわかってきたからですね，先ほどの伊井さんの話の中にも子どもが里帰りしてこない。何も見に行くところがないというような地域だということを聞くとですね。まず，富里というところはどういうところなのかなと思い返してみたんです。例えば，先ほどのホタルの話にしてもそうなんですけど，公共の場所でホタルが住みそうな場所って言ったら中央公園のヨシの池があるんです。私はね，もっと和む。あそこをに行って，きれいだな。ホタルも飛んでいる。そういうような

	環境を作る。それを「市がきれいにしなさい」。ではなく，要するに住民と行政が一体となって環境を整える。こういうようなことの中で，条例を作るっていうのはなんなんだろうって今，思ったんですけど，私は，具体的にこれをやってくれというのでここに参加したんじゃないんですけど，みなさんと一緒に条例を作ってなんだろううって勉強させていただこうと思ったんです。その中で富里ってきれいだよね。強いて言えば，ホタル。ホタルを見に行ったら，ホタルを見る場所もきれいだったと。公園を歩いたらきれいだった。トイレに行ったらきれいだったと。そういうようなものがですね，富里独自の考え方で，富里になんとなく人が寄ってくる。「お母さん，東京から帰ってきたんだけど，久しぶりに町の中歩いたら，どこいってもきれいだね。」と「なんかここにくると和むね。」というような街。それを条例として，一緒に作っていく。そのためのどんな条例なんだろうかっていうことが，本当の協働ではないか。人任せにせずに市民全体というか，住民や行政が一体となるっていうのは，「市はやってくれない」，「誰々はやってくれない」ではなくて，どうやったら，条例としてみんなが「やれる」かっていうものを考えていきたいなって思いました。
アドバイザー	おっしゃるとおりで，やっぱり発想として，「行政がやってくれるはずだ」とか「何でやってくれないんだ」っていう感覚って住民の中にあると思うんですね。それは，納税者として言うっていう部分は確かにあると思うんですけど，じゃあそれをすべて行政がやってくれるのかっていうとそれはいろんな意味で限界があるし，逆に住民でやったほうが，はるかにいろんなことできることもあるわけです。だからそういった意味で，協働のまちづくりっていう発想は，今おっしゃった「人任せではなくて自分たちに何ができるのか」っていう協力して何をしていけるのかってそういう動きをいろんなところ作り出していく。それを可能にしていけるために条例を作る。まさにその発想が。まさにおっしゃるとおりなんですね。ですから，単に

	「絵に書いた餅」にするのではなくそういう動きを作り出していける条例にできるかどうかがまさにこの委員会に課された使命だと思いますので，まさにそういう発想が必要だということを改めて，ちょっと押さえていただければと思います。 　先ほどの民生委員のこともそうですし，それ以外のこともそうですけど，要するに特定の人に負わせるっていうのには，限界があるってことですよね。民生委員の立場，ほかの立場，その人がなんでもかんでもカバーするっていうのは，限界があるので，そういう特定の人に委ねない。それこそ近所の見回りなんかは誰だってできるわけですから，そういうのを特定の役割ではないんだけれども，お互いにできることを動きとして作り出していく。こういうのが，まちづくりの根本的な部分なんです。これも今後議論していければと思います。ちなみに先ほどの掃除の話ですけれども，私の知り合いの市民団体に「お掃除隊」っていうのをつくり，町の中のありとあらゆるところを掃除しに行くんですね。町の病院を公園を掃除に行こうと。そうするとそういう姿を見ていて周りで感じる人っていうのがいるわけですよね。そうすると私たちは木曜日の朝７時から掃除やってるんです。って言うと，次の週になったら，人数が少し増えてる。っていう形で動きが広がっていく。そういうのが，市民活動の魅力なんですよね。そういうことも含めて大きなポイントだと思います。
小澤委員	小澤和子です。私は，南部地区，高松入という地区に住んでいます。浩養小学区，南中学区になります。先ほど伊井さんのお話にもありましたけれども，浩養小学区では，「子育てサロン」と「いきいきサロン」と言いまして，月に１回ですけれども，６０歳以上のおじいちゃん，おばあちゃんを対象に，サロンを開いていただいております。実際，子育てサロンの方は，伊井さんがおっしゃるように本当にお天気がいいのに遊びに行くのかっていうような地域になりまして，１組・２組のお子さんを連れたお母さんがいらっしゃる程度なんです。そうしま

	すと，だんだんサロンにいらっしゃる回数が減ってきて，何をしに行ってるのかってことが，わからなくなってしまっているような形ですね。おじいちゃん，おばあちゃん達の活動は，結構盛んになっておりまして，鉢植えを作ったりだとかお裁縫をしたりだとかいろいろな活動をしています。そのおじいちゃん，おばあちゃん達との接点を持てる場であるにも関わらず，減ってきてしまっているのは，悲しいことだなというふうに思いますし，地区社協の人たちが，確かに大変な仕事をされているということも先ほどお話いただいたよりも身にしみてわかっております。微々たる力ですけれども協力させていただいているところはありますが，それがほんとに一部の人にしかわかっていない，実際「いきいきサロン」であったり，子育て支援であったりというのも回覧で回りますし，「ささえ愛」でしたでしょうか。それでも拝見しますけれども，それをご覧になられている方が，どれくらいいらっしゃるのかっていうのを考えたときにみなさんのご苦労が，全く通じていないのかなっていうのを感じることがたくさんあります。実際，こちらの会に参加させていただいたときに，場違いなところに私は来てしまったのかなと毎日畑仕事してまして，地域との関わりはたくさんありますけれども，こういう公の場に出てっていうことは，あまりありませんでした。正直，昨年の１１月にＪＡ富里市の女性部が立ち上がりまして，そこで部長をさせていただくことになってこの機会をいただきました。今，女性部としてやっていきたいと思っていることは，地産地消と食育に力を入れて学校給食に私たちの作っている安全で安心な顔の見えるお野菜を提供していきたいなという思いで今，活動を始めようとしています。実際に何からとりかかっていいかわからない状態でおりまして，私と同じように毎日畑と家の往復の方々が集まってお話をするわけですから，その先に進むのがとても難しいんですね。今，実際どこまでいってるかっていうとちょっと栄養士さんと話をさせていただいて，毎月どれだけのお野菜が給食に提供されているか富里産のものですね。そういうのをお伺いして

	いるところなんで，まだ発展はしていませんけど。今日，みなさんのお話を伺っていて，私にももう少しできることが出てくるのではないかと，行政の方たちとのお話しを持つ場もいただいて，提供できるお野菜をどうしたらいいかというようなお話し合いとかを持てる場を作っていければいいなと。みなさんのお話を伺うごとに強くなってきておりまして，参加させていただいて今，ほんとよかったなと思っております。みなさんの思いほど，到達しておりませんが，一生懸命やっていきたいと思いますので，よろしくお願いいたします。
アドバイザー	農業が地域づくりの中心になるっていう事例はたくさんあるんですね。地産地消っていうことをどうやって考えていくか。食育一つをとっても学校給食にどういうふうな野菜とか用いられているのかっていうのを，調査をして，もっと流通とかを拡大していくっていうと地元の野菜が安全な野菜が子どもたちの衣食に入っていくと。今食べているものが，この町で取れたものなんだってことを知ることによって，食っていうことが教育につながる。そういう資源循環って協働のまちづくりそのものなんです。そういう意味で，そういう循環ってさらにまた違った方向につながっていくと。例えば，雇用促進って話とか展開していきうると。ですから，先ほどから出ている市民活動との連携ってこともまたありえますし，ですから是非その観点からいろんな可能性を模索していければと思います。よろしくお願いいたします。 〈休憩〉
荒野委員	私は，富里の七栄６区で東京で修行して，ちょうど１０年前に帰ってきて，床屋を母と二人で営んでおります。男の方は，床屋さんに行かれると思うのですが，１時間という限られた中で世間話っていうのが出るんですね。母親のお客さんを引き継ぎながらも，自分のお客さんを増やさなきゃいけないってこと

	で，いろんな活動に顔を出すようにしました。七栄親子まつり，最近で言えば，富里高校の野球部の卒業生なんですが，野球部ＯＢ会を５年前に立ち上げたんですね。そのうち僕も結婚して子どもが生まれて，まだちっちゃいんですけれども，自分が小学生の頃は，床屋さんなので，土日は親が遊んでくれないものですから，子ども会というものにお世話になったんです。それで，私も，今，青少年相談員というのもやって子どもたちとふれあっているんです。つい先日もドッチボール大会を青少相で開催して，僕も審判をやったりしました。いろいろな団体で活動していて思ったのは，うちのお店にくるお客さんがくれる情報っていうのは，うちの店で終わっちゃうんですね。僕がほかでしゃべらない限りは。また，みなさんが色々やっていらっしゃって各自治会等の苦労とか，ホタルが実際にそんなにいろんな所で見れるとは知らなかったものですから，僕も今年で３７歳になるんですが，団塊ジュニアと呼ばれている世代でして，たとえば近所で「こんちは」と言ったら，「こんちは」で終わるんですよね。昔は違かったと思うんですよ。僕らの小さかった頃には，どこに行っても，「おう。荒野さんちの息子か。何やってるんだ。人の畑で，ここで凧揚げてちゃ駄目だろう。」って。「すみません」って言ってパーって行くんですけれども。今は，そういう地域のつながり，大人の目が，薄れてきています。何年か前に，親子まつりで交通係をしていて，休憩場所で，子供達にお菓子を渡すんですね。子供達はわーと食べて，ある子供がお菓子を食べてて，ぽろっと落としたんです。スナック菓子をですね，それを拾ってゴミに捨てれば良いものを，それを踏んでガシャガシャガシャってやったんです。でも，他人の子供ですけれども，僕も昔そうやって周りの大人にしかられて育ってきたから，「だめだよ，だめだよ。そんな事をしたらだめだよ。汚れちゃうだろ道路が。誰が掃除するの。」と注意したら，サーとお母さんが来て，子どもの手をがっと掴み，サーッと逃げるように行ったときに僕をキッと見たんですね。たぶん，みなさんが感じてらっしゃるとおり，僕らの世代の親って

	いうのは，どうも，人と接するのが恐いのか嫌がるのか面倒くさがるのか。私の住んでいる地区でもやっぱり地区費を集めている人が，新しく入ってきた人が回覧版とか面倒くさいからいい。会費も払わない。この地区には世話にならない。この地区に住んでるのにね。全くおかしな話で，ただ，そういういろんな情報発信するだけじゃ駄目だということで，去年の年末，自分自身でボランティア団体を立ち上げようとしたんです。そして，いろんな団体が，お互いの持っている情報を発信して，その情報を共有し合う場所が僕は欲しいと思ったんですね。ＮＰＯ団体とかではなくて，もうほんと，座談会みたいなものを開いていろんな意見を言って，じゃあ今回は，この人の不満についてちょっと多めに語りましょうかとか。そういうものを理想として求めていたんですね。そんな時にまちづくり条例検討委員会，こういう場所があって，関谷先生の話を前回聞いて，情報の共有とか，そういう，まちづくりっていうものを聞いて，まさに自分の頭の中でゴッチャゴッチャになってた事が，ほんと上手く説明されて気持ち良かったです。今，やっぱり前半の部分でみなさんが色々意見を出し合っているのを聞いて，１つ思ったのは，僕も子供を持つ親と目線があるんですけれども，条例検討委員会というのが，一年間というくくりで会が開かれるますと，一年間経つと無くなっちゃうというのは，凄く寂しいので，この条例検討委員会というものを，今後，その行政と団体と，行政と市民と，いろんな機関の橋渡しになるような第三者的，会計に監査があるように，富里全体を見守る委員会に出来る条例を作ったらこの場所でどうかなと一つ思いました。あと条例というのは，やっぱり僕も硬く考えていたんです。ポイ捨て禁止条例とか，ああいうのが，やっぱり，一つの街で罰金制度をとる手厳しい物だと思うんですけど，条例って言えば，富里の法律を作るイメージがあったんです。ちょっと思ったのは，うちのお客さんに，小さいお子さんがいる親御さんがいるんですけども，調べてみないと詳しくはわからないのですが，母子家庭というのは保育園費が免除になるのか，給食費が

	免除になるのか，そういう補助があるそうです。やっぱり母子家庭，片親は大変ですから，仕事はしなくてはいけないし，収入が一つしか無いわけですから，ある程度免除になるらしいんですよ。で，私の一つ上の先輩ですね，あの，奥さんをつい最近亡くされた方がいて，で父子家庭なんですね。父子家庭で，仕事をやらなくてはいけないから当然，保育園に預けるんです。でもね，父子家庭は全額払うんですよね。なんで母子家庭が免除になるのに父子家庭は免除にならないのか，同じひとり親なのに。子供をね，男が育てるって，たぶん，お母さん以上の気苦労とパニックがあると思うんですが，そういう人に対しての免除がどうしてなんでないんだろうというのが一つあって，それが，もし父子家庭に出ませんといえば，他の自治体で出てるんだというのであれば，富里でも見直して欲しいですし，国となっちゃっていれば，僕もあまり大きなことは言えないんですけれども。あと保育園ですけれども，延長保育の問題や時間帯の問題，そしてだいたい保育園に入れない家庭が４０～５０あるそうなんですよ。４０，５０と言ったら一つの保育園が作れちゃうんですよね。今，不況不況っていわれている中で，よく聞くんですけど，今まではお母さんはパート程度だったのが，やっていけないってのがあって，正規職員を希望したり，今よりもっと，子育ての現状が厳しくなっているので，もうちょっと子育て支援もそうですし，いろんな面で，そういう細かい所で富里の小さな法律みたいなものが作れたら良いんではないかと思いました。長くなっちゃたんですが，いろんな情報をとにかく，この場で出し合うのもすごい大事ですし，これから１年と言わず，ずっと続いていかなきゃいけない場だと思うんですけれども，とりあえず今日は，自己紹介ということもあって，個人的な自分の意見を発言させてもらいましたが，これから１年間よろしくお願いします。
アドバイザー	情報を共有するっていうのは，とにかくもう決定的に重要なことであって，それをどういうふうに多角的に作り出していけ

	るか。そういう場っていうものを地域に作っていけるのかっていうことですよね。それは，いろんな場っていうのを地域に作っていけるのかですよね。これは，いろんな場がありうるわけで，もちろん公民館であったり，公共的施設ですけれども，まさにお店だって１つの情報交換の場であってつなぐ役割っていうのができるわけですね。地域の主体っていうのはいろいろな主体があると思うんですね。企業を経営されている方，地元の商店なり，お店をやられている方も，まさにその役割をはたしうるわけですし，もちろんそういう地縁組織とか市民団体もなしうる。だからその辺は，別に線を引くことはまったくあるわけじゃなくて，そういうような場っていうものも生かしていくと同時に相互につないでいけるかどうかっていうのが，協働のまちづくりのベースになる。先ほどのお話ともつながってくていきますけれども，そういうところがあると思います。あと２点ほど，父子家庭というのが置き去りにされてしまう。これは，やっぱり法律上の問題があると思うんですね。私もそれがどうなってしまうのか法律的な根拠を全部知っているわけじゃありませんけど，国レベルの法律，それから町で決めている部分といろいろあると思うんですね。今のこの分権の流れの中で問われてきているのは，国の法律で決まっているのは，なかなか難しい部分がある。けれども，国の法律を富里市なりに解釈して運用していこうと，これが今問われていることでなんですよね。要するに分権するってことは，そこの自治体が自立するってことですから，国の法律に反することはできないんですけれども，富里にこういう問題があるんだから，それを解決する。その解決するにあたって，国の法律が，もし仮に足かせになるのであれば，それを変えようという発信を富里市から国にぶつけていくというぐらいなことを今やるべき流れになってきているんです。ですから，ちょっと難しい問題も出てきていますし，あとは，もっと個別に対応できるものは，富里市として独自に条例なりなんなり規則なりを作っていければいい。まさにそういうことが問われているのですから，そういう部分も

	あわせて今後考えていくべき課題になってくると思います。それからこういう委員会が今後どういうふうになっていくのかっていうものそうですけれども，こういう場を継続したいってみなさんが思われるんであれば，それを今度条例の中に組み入れていってですね，もっとこういう情報の場っていうのを継続的に生かしていこうとそういうことを条例に盛り込むことだっていくらだってできると思います。それは，どういう形にすべきなのかっていうのは，みなさんでいろいろ知恵を出し合っていけばいいと思うんですけれども。それは十分可能だと思います。その辺も含めてお考えをしていただければと思います。次いかがでしょうか。
前川委員	南七栄に住んでいます，前川です。自己紹介といっても特になにもないんですけど，レポートを出したときには，すごい偉いことを書いたんですけれども，先ほど森田さんがおっしゃっていたように本当に慎重に取り組んでいかなくてはいけないって思っています。私は，今，南七栄の高澤区長が中心となって防犯活動をやっております。もう５年ぐらいになるんですけど，当初は６０代前半の方も多かったんですけど，だんだん高齢化になってきてですね，１年に１人抜け２人抜けとだんだん減っていってしまうんですよね。これは仕方がない現象なんですけど，これから，こういうことを各地区でおやりになっていると思うんですけど，どうしていけばいいのか。富里では凶悪事件とかそういうものは起きないですからいいんでしょうけど，幸いしているんでしょうけど，警察署は市にはないんですよね。成田警察のほうでも一生懸命やってくれていますけれども，やはり防犯の関係をですね，関係する機関との連携をとって，もっとやりやすく，市民のほうが活動して問題がおきたらすぐ警察が対応してもらえるとか。そうしていただかないとどんどん定年でおやめになる方がいて，入ろうと思っても，やっても無駄かなと，いくらやっても認められないのかなと。ある程度は，認めてあげないとどんどんいなくなっていっちゃうん

	ですよね。ですから，そういう面もこの委員会を通じてみなさんとまた知恵を出していきたいと思っております。よろしくお願いいたします。
アドバイザー	市民が自主的に始めた活動が，みなさんもご経験あると思うんですけど，途中で頓挫してしまうことがあるんですね。それは人手の問題であったり資金の問題であったり，あるいはやったことが周りになかなか認めらてもらえない。あるいは，その輪が広がっていかないってことですね。それは，まちづくりにおいて，大きな課題の部分であって，これはもちろん，いろいろな解決方法はあると思うですけど，例えば今の防犯の問題であれば，警察，あるいは，行政との連携というのをどういうふうにしていくのか。連携というのが見えていない部分がかなりあると思うんですね。だから，個々でやっても一部の人たちでやっても自分たちで何をどこまでやっていいのかっていうのが，なかなか見えてこない。ここまでやれば警察との連携がはかられるとかまた見えてくれば，違うやりがいというものが出てくると。そういうつなぎという部分が，各方面出てくるところですので，その辺も是非課題になるのかなと思います。
久野委員	こんにちは。久野と申します。私，コンビニエンスのファミリーマートを経営させていただいております。ＦＭマネージメントという会社なんですが，富里を起点にしまして，千葉県内数箇所で，各地で営業させていただいております。コンビニというととかく批判の対象になりがちで，例えば，市民活動されている方のところに呼ばれると，真っ先に言われるのが，ゴミの問題。それからもう一つ言われる２４時間正月まで営業していて，お前が日本の文化壊しているんだなんて言われるんですよ。それからあと商店会ですね，うちの商店会最近元気ないんで，久野さん，何か元気になる話をしてくれないかって。のこのこ出かけていくとだいたい大型店は敵だと。コンビニなんて，商店会のおできみたいな存在だから口聞きたくないんだ

	と。そういうような方もいるんですよね。そういうときにお話しするのがですね，２４時間，３６５日，とりあえず電気がついていて人がいるんだと。そうしたら，ささやかな小売業の施設ですけど，ご町内のインフラ基盤じゃないですかと。そうしたら，せっかくあるんだからみなさんで使い勝手を考えてくださいよと。ご提案してくださいというようなことを言っております。そうしますと，地域によっていろんな話が出てくるんですけども，例えば印西だと，社会福祉協議会さんからお話があってね，ここ手薄なんで，出先窓口になってくださいとかいう話があってね。えっ。うちの店長なんかにそんなことできるのかなと思ってね，とりあえず，掲示板一つ置かせてくださいと。そういうところからスタートしたりとか。各地でいろんな形で活動しています。で，今回協働のまちづくり条例ってことで，私も森田さんと一緒で，協働という言葉に違和感を憶えたのと，条例というのがピンとこなかったんですが，関谷さんのご講義を聞いてですね，これは大変なことが始まっているなと富里市本当に本気かなと思っていますね。それは，僕の受け取り方では，まず３つのことを変えなくてはいけない。１つは，行政の職員の仕事の仕方を変えるって話でしょ。それからもう一つは，市民の意識も変えなくてはいけない。それから，３つめは，そこにもいらっしゃるけど，議員さんもちょっとお仕事の仕方を変えていかざるをえないだろうと。そういう大変なお話なんですよ。で，どうなんだろうと思ったらですね。先日，成東に関谷先生の話を聞いた帰りにですね，車の中で，二上さんでしたかね，先生のお話，いいお話だったんだけれども，昔普通だったわよね。ってこんな話って。昔そうだったじゃないって。今，みなさんのお話を聞いていたら，まさにそうで，ここにいらっしゃる方は，さまざまな地域活動をされている方ばっかりなんですが，いろいろ問題点もおっしゃっていただいたんですね。僕なりに感じたことは，富里って前から協働の仕組みというか資産ってもともと立派にある町なんだって。僕は，どうも外から来たものですから，非常に実感しているんですね。

	ところが問題は，それを知っている人，体験として知っている人，それから実践している人も大勢いるんだけれども，知らない人が圧倒的に多いんですね。僕もサラリーマンやっていましたから，ちゃんと家もあるんですけれども，寝に帰るだけですから，地域って何も知らない。知らないって人が一番問題かもしれない。公共サービスって言うのはね，どこに住んでも享受できるんだって。当たり前に僕もね，１０年前まで思っていましたから。だから一口に言うと，富里村の良さとそれと市民としての良さをいかに融合していくか。ということがまず一番難しくて，大切なことなのかなと今，考えております。そういう人たちをつなぐ。例えば，今１５人の方がそれぞれすばらしい活動していらっしゃるのにたぶん初対面の方もいると思うんですよ。それからちょっとお話したら今度，連携してやれるわねって話ももう出てきているわけですよ。まず，僕たち１５人が，まず連携するというかつなぐという体験をして，で，今度は外に向けてどう開いていくのかっていう体験をしていくと自然に連携の枠組みのスタイルが見えてくるのではないかというふうに感じました。で，実は，市民の連携の枠組みの事例っていうのは，お隣の佐倉にも佐原にも千葉にも結構できているところもありますので，もし機会があれば，みなさんにもご紹介させていただければいいなと感じながら，みなさんのお話を伺っておりました。以上です。
アドバイザー	コンビニが拠点になるっていうのは，すごくおもしろい視点で，これも一昔前だと，地域経済をぶち壊すのかとか文化をどうのこうのっていうのがあったんですよね。けれども，視点をちょっと変えれば，地域を活性化させるためにどう協力できるのか，それぞれの違いをどうして生かしていけるのかっていうような話になると連携が出てくるんですね。
久野委員	そういう企画とか，僕のところにくるんですけど，そうすると金のかかる話しか出ないので，そこで断ち切れちゃったんで

	すけど。
アドバイザー	発想の転換っていうのもありますし。今おっしゃったように行政職員の仕事の仕方を変える。市民の意識，議員の意識を変えていくっていうのは，全くおっしゃるとおりで，協働っていうのは，たぶんどの視点も変わらなくてはいけない。自己革新って言うのが，ポイントとしてあるんですね。そういう意味で，それぞれがどう変わっていけるのか。変わり方もいろいろあるとは思いますけれども，そういう意味で，非常に大きな課題になっているっていうのは，間違いないわけで，そのためにどういう条例を作らなきゃいけないのか，条例の種類もたくさんありますし，何をねらいとし，それをどういうふうに作って，運用していくのかこれからまたいろいろ先行事例も含めて検討できればと思いますけれども。大きな問題を抱えたというところかと思います。あとお二方。
大木委員	大木と申します。一応，やっている活動としては，「育てる会」というボランティアグループの代表をしていまして，内容的には，自分を育て，子どもたちを育て，地域，環境を育てるってことを主旨として活動しています。夏休みには，幼稚園・小学校の子どもたちを集めて，バーベキューをやったり，乗馬をやったり，協力してくれるところがあるので，そういうところにお願いして，段取りだけをしてあげると，お母さん方の協力で，任せてバーベキューなり乗馬なり，子どもたちの指導はやっていただく形をとっています。あと，行っているのも老々介護ということで，高齢化しているので，いろいろ相談を受けて，一緒に市役所に来て，手続きを手助けをしたりとか施設に行ったり，説明を聞いて，それをわかりやすくまとめてあげたりっていうことを行っています。あとは，今回の協働のまちづくりに関しては，各地域の不公平さがないように考えていってあげたいなというのが第一に思っています。私が住んでいる中沢もそうなんですけど，国道には沿っているんですけれども，

	山を越えていくようなところに団地がある地域なんですね。なんで，そこと七栄地区とかの格差がすごいあると思うんですね。私が住んで１５年になるんですけど，格差社会って言われている中，富里だけは格差がないように自分たちが住んでてよかった。また，子どももここに住んでほしいって。やっぱりここでよかったっていうまちづくりの条例として考えていきたいなとは思っております。簡単ですけど，よろしくお願いします。
アドバイザー	まさにその格差がないというのは，すごく重要なことで，まさに格差社会になってますますこれがひどくなっているし，少子高齢社会の中で，富里はそうでもないでしょうけど，いわゆる限界集落と言われるような現象っていうのは，多々見られてきているんですね。そこをどういうふうに支えあっているのかっていうのは，まさに課題なわけですけれども，これを考えていく時に重要なのは，格差をなくすっていうのはある程度平等というか。それは，一律的な平等とはたぶん違うと思うんです。
大木委員	その地域に合った。
アドバイザー	そうなんです。まさにおっしゃるとおりで，戦後行政がやってきたのは，まさに一律的画一的な，公平，公正という名のもとの公共サービスの提供だったわけですね。これがいまや限界に来ていると。なると，かといって格差はありえない。それをどういうふうに平等にしていくのかって言ったときの平等は，一律的なものとは違う何かなんですよね。これは，模索しなくてはいけないと思うんですね。もう一つは，みなさんおっしゃるようにその地域の個性を生かしながら，その地域の人たちが自分たちの住みやすい地域にしていくっていうのが，まさに格差をなくすわけなんですよね。ですから，そういう地域の個性を生かす。もちろん地理的なものだとか何かによっていろいろ他の地域との違い，物理的な違い。そこをうまく解消しながら

	地域の個性を前面に出していけるような形はどういうことがありうるのか。まさに地域の個性ですよね。合併しているところがそこに直面していて，合併していたところっていうのは，逆に言うと，従来やってきたことが全部解消されちゃって，中央集中になっちゃうという問題もありますので，そういう地域の個性をどういうふうにいかしていけるのかっていうのも非常に大きな課題だと思いますので。そのための知恵を出し合っていただければと思います。あと高澤さんと渡辺さんですね。
渡辺委員	初回から欠席して申し訳ありませんでした。私，体育協会のほうでバレーボール連盟で，理事をしております。年間を通して大会等を行ったり，郡市民大会に選抜したメンバーを選んだり，学生とか一般，家庭婦人俗に言うママさんバレーなんですけど，その中からいろいろ選抜して，活動しているんですけれども。実際富里には，今，ママさんバレーチームは，5チームしかないんですね。やはり硬いボールですので，ハードじゃやれないっていう人が多くて，郡市民大会は，硬いボールでやっているものですから，なかなか人がいないんですね。地元から出さなくてはいけないので，中学生大会をやってみたり，富高を交えて，そこの中からある程度，富里市に在住している人を育ててあげようといろいろと試みたのですが，なかなか難しいのが現状です。自分も審判員をしていますので，県でいろいろ勉強したものをみんなに伝えています。近隣の親善大会，今年で４年目になりますが，四街道，成田，佐倉，八街，酒々井，これから印西，千葉の方まで延ばしていく予定なんです。各市町のチームを富里に呼んで，大会を開催するようにして，みなさんと違って，個人個人というよりも大会を企画，運営していくということ，参加する人を増やすことにすごく力を入れてしまって，実際，市民のためにっていうのは，どこまでかはわかりません。それからこの条例に関しても自分ではまだ分からないところが多く，みなさんの話を聞いているとこんな立派なことを個人個人でしていたんですねってことで。本当にびっくり

	しました。これから自分も勉強させていただいて，みなさんと一緒に良い富里をつくっていきたいと思いますので，これからよろしくお願いいたします。
アドバイザー	バレーボールもそうだと思いますし，スポーツが地域をつなぐ事例って結構あるんですよね。それが，どういうふうに可能なのかこれから是非いろいろと伺えればとも思うんですけれども。地域の人達が集まる一つの求心力になるってよく言われているんですよね。それをどう富里市でそういった場を作ったり，そういう会を開催したりしていくことが，そういう動きにつながっていくかどうかは，私もまだよくわかりませんけれども。その辺で大きな活力になっていくことは間違いないと思います。その辺のアイディア出しを今後お願いできればと思います。おおとりを高澤さんにお願いします。
高澤委員	自己紹介をさせて頂きます。私は新潟県の生まれでございます。地元の人間ではございません。また，各所を転々としてきましたが，富里が一番長くなりました。団地に家を建て移り住んでから３０年ほどになります。その間，２・３年のブランクを除いてはずっと南七栄自治会の役員に携わって来ました。現在は区長としてこの３月末で満７年の任期を終えます。来年度も「もう一年やれ」ということになっているので，丸８年やることになると思います。そういう中で，そこの自治会長（区長）をやりながら「富里第一小学校区協議会」，これは，富里市では唯一の学校区組織でございます。学校を中心に，各区長さん，第一小学校からは校長・教頭・ＰＴＡ会長，そして学区内の民生委員，青少年相談員，保健推進員等，各団体からの代表で組織されており，その団体の構成員全員と地域の有力な方々にいろんな形で加わってもらい各種の活動をやっておりますが，そこの会長を務めさせていただいております。なお，富里市区長会の推薦で，現在この検討委員の方に出させていただくことになったほか，富里市社会福祉協議会理事と，富里市環境審議会

	委員も委ねられております。 　私どもの単位自治会は，建売住宅地とは違い土地売りを買った人が順に家を建てて増えてきました。最初の入居は昭和５０年（１９７５年）で，現在の世帯数は３７０～３８０というところでございます。私が区長になって７年になりますが，最初に区長を引受けました時，「これは変えなければ」と強く感じるものがあり，それらを踏まえて「南七栄不変の目標」として４つ掲げました。一つは「安心して暮らせるまち」，一つは「きれいなまち」，一つは「心の通い合うまち」，一つは「モラルの高いまち」です。これを不変の目標とし，自助努力を基本として「行政を巻き込まない」「他人を無理に巻き込まない」「自分たちでやる」という形でやって来ました。今では，かなりの方々が，自分の住む「南七栄」に誇りを抱くようになって来ているように感じております。 　そんな中で，自治会として，いろんな問題が見えてきました。「防犯」「交通」「路上駐車」，「医療」，それから「集中合併浄化槽」などいろいろです。学校区としては「農業」「子供の定住とか後継者」などの問題，こういうのが大きな問題の一つだと思っています。これらは「安心して暮らせるまち」の範疇に含まれると思います。 　「きれいなまち」の方では「ごみ」「清掃」「空き地」「空家」「公園」「道路」「街路樹」等々，団地も古くなりますと，当時家を建てた方々も高齢化し，子供さんの家に移り出て行ったりすると，後にはさまざまな人が入って来ます。しかし，来た以上，これは，我々と一緒にやっていかなくてはならない，如何にこうした人たちを引き込んでいくのか・・・，うまくいっているケースもありますし，まだ時間をかけないといけない方もいらっしゃいます。年に大体１０世帯くらいが入って来ます。 　「心の通い合うまち」と言いますと，「挨拶」「諸活動」「会議」「役員」などをなるべく多くするとか，自治会費の集金は半年から一年で交代する班長が一軒一軒回るなど，これは顔を合わせて言葉を交わすということにもつながります。そういう

	狙いから会費の振込み制はやっていません。自治会は全員加入で特に問題はありません。それから，子どもについては，子ども会／育成会活動の支援，高齢者についてはシルバー会の活動支援を行っています。それから「広報」，区長に就いて満７年，これまで毎月一回も欠かさず第２水曜日に発行しております。自治会や町内の出来事などを写真入りで載せるほか，私の思いを常にページの上の一角に載せていろいろ細かく理解して貰えるように努めております。 「モラルの高いまち」これはもう，すべての原点がここにあると，最後に掲げてはいますが，これがまず一番，すべての基本はここだと思っているんですが，これを一番先に掲げても「なかなかそう巧くは行かないだろう」との思いから最後にしたものです。いろいろな問題がございますが，この辺までが自治会として，単位自治会としての概要です。 ちなみに，私ども学区協議会がどんなことをやっているかと申しますと，今年度の活動報告を見ますと何十項目とあるんですが，そのうち特長のあるものだけ申し上げます。４月に「生き生き交流会」と言うものを地区社協と一緒に開催しています。これは，ほかではやっていません。学区のお年よりをお花見の時期に集めまして・・・去年は１２０名以上集まりました。これは民生委員が主催して地区の区長がバックアップして行ったものです。今年も４月３日に開催が予定されております。それから，第一小学校の構内の草刈り，これは運動会の前や，５月の頃に区長さん及び環境美化推進員の方々，そのほか地域の方々に協力を呼びかけて年に２回やっております。その時々で集まる人数は違いますがＰＴＡの方々も出たりして，毎回延べ１００名前後を数えるようになり活動としても定着してきています。また，ゴルフ大会もやっており，だいたい毎年１０組くらいの方が参加しています。久能カントリーで学区協議会議会の行事としてやっております。いまに至って富里市では秋ぐちに「地域環境美化月間」を設けて美化活動をやるようになりましたが，これは第一学区の方でそれまで２年ほどやってい

	たのがモデルになり，現在，全市にこれが広がりつつあるものです。 　それから，学区の区長は民生委員の方々と一緒に活動することが非常に多い。何をするにしても民生委員の人と一緒くらいと言っていいくらいですね。ですから，子育て支援，今「すくすく広場」と言うのがあります。これまで名目上は何もやっていなかったのですが，今年度から，「子育て支援すくすく広場」と銘打って，現在第一小学校を会場に毎月一回やっております。この辺のところにもできるだけ学区協議会の方からも費用やその他の支援を行ったりしています。また，秋ぐちには，役員が地域のいろんな施設，「文化施設」や「福祉施設」その他見聞を広めるための視察研修を行っております。毎年１２月には，学区内の不法投棄物の回収，トラックで４台・５台・６台と出るんですが，区長さんや環境美化推進員の方々，あるいは，有志の方々を集めてやっております。あと，学校では「昔の遊び教室」，前回もやりましたが，今回も４０名ほどのおじいちゃんやおばあちゃん方を中心に，先生役になっていただいてやりました。こんなのが学区協議会の活動です。このように，地縁組織としての学区協議会が，単位の小さい小学校区の１０の自治会が集まり，きちっとした規約のもとにでき活動しています。 　こういう中で，これまで「南七栄区会」という最も基本的な地縁組織としての単位自治会の中では，末端の地域住民が抱える多くの問題に触れ，解決や改善に取り組みながらいろんなことを学んでまいりました。また，富里第一小学校区協議会の中では，周辺地区の区長さんや民生委員，その他周辺団体の方々との交流の中でも，共通する悩みや課題を多く発見し，取り組む中で「連帯協力の大切さ」をしみじみと感じております。 　これら，地縁組織の運営を通じて地域が抱える共通の悩みや思い，地域の特性や温度差などを，いつものことながらしみじみと感じています。これらを，私，区長会の副会長をさせていただいている関係からも，来年度は区長会を通じてさらに掘り

	下げ，常々の様々な思いなどと併せて「地縁組織が協働にいかに効果的な関りあいを持てるか」，その在り方を，考えを，この委員会に反映させて，空理空論で終わらない実のあるものにしていきたいとこのように思っています。
アドバイザー	地縁組織，自治会活動を長年やられてこられて，自治会としてもそうですし，学区協議会ですか，としての活動も非常に多角的にやられて，まさにこれまでの履歴ということもありますし，さらにそれを協働の動きにどういうふうにつないでいけるのか。学区の取り組みとして協働をどういうふうに活用していけるのかという視点をお持ちだと思うんですけども，高澤さんがいらっしゃるところは，かなりそういう形で充実して，今のご報告の中にもあったかのようにかなり活発にやられているようですけれども，やっぱり富里市全体として見ると，その辺の差っていうもの，携わっているお立場から見てもやっぱりおありになるんですか。
高澤委員	もう本当に。日吉台小学校区の方にも学校区組織を立ち上げる話は出ています。今は日吉台地区だけの連絡協議会，日吉倉あたりも含めた学校区単位としての動き，そういう考え方を持って取り組み始めているようです。そういう組織が全学校区に出来て行ったら良いだろうなと思います。
アドバイザー	その辺の地縁組織の可能性というのをどう開いていけるのかっていうのをやっぱり加入率の問題っていうのも出てくるでしょうし。地縁組織として何ができるのかっていうのがちょっとまだ見えない。特にまだ若い世代なんかは，そういう部分ですよね。その部分をどういうふうに今後考えていくのかっていうそのためのアイディアとかあるいは，どういう環境があるとうまくいくのかっていうその辺も大きな課題になっていくと思うんですよね。ちょっとその辺をベースに今後，ご提案をいただければと思います。ちょっと時間が延びてしまいました

	けれども，そこの部分については，今日，皆さんの自己紹介を伺いながら，それぞれのお立場でどういう動機で参加されて日ごろどういう活動を行われて，でどういうように協働のまちづくりを実践していきたいのか。そのためには，何が必要なのか。どういう課題があるのか。今日は，ほんの５分ちょっとのお話でしたけれども，それでも雰囲気はなんとなくみなさんよくわかってきたと思いますし，共通する目標も見出せそうな今日，お話聞いただけでも思いますし，私も外から来てそういうお話を伺っていると，なんかかなりおもしろい，いろんなことができるんじゃないかという実感，印象を改めて持つこともできましたので，これも今後の議論の中でいろんなアイディアを出して富里らしいまちづくりとその条例，環境整備というものをしていければというふうに思いますので，引き続きどうぞよろしくお願いいたします。
事務局	どうもありがとうございました。非常に参考になる話をみなさんからいただきまして，たいへんありがとうございます。１回目の関谷先生の講演で，行政は市民のことを知らない。地域のことを知らないと。ちょっと耳の痛い話を言われまして，まさに地域のことを知らなかった，市民のことを知らなかったんだなとみなさんのお話を聞いて感じさせていただきました。そういった思いを胸に協働のまちづくり条例制定に向けてとりんでいきたいと思いますので，どうぞよろしくお願いします。
事務局	〈２〉今後の進め方について 　資料により説明